

第5学年「理科」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 科学的事象に対する関心が高く、実験や自然観察に意欲的に取り組むことができる。
- 問題に対する予想を立てられる。
- 課題** ▼ 観察や実験結果から考察することが難しい。
- ▼ 既習事項や生活体験との関連を根拠にして予想を立てたり、予想から結果の見通しをもったりすることが難しい。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 科学的事象と既習事項や生活体験との関連を見出す力
- ◇ 根拠ある予想から実験・観察結果の見通しを立てる力
- ◇ 観察・実験の結果から考察する力◇

具体的な改善策

- 関連する既習事項を確認したり、関連付けたりしながら学習を進める。
- 自分の予想が正しかったらどんな結果が得られるか具体的に考えさせてから実験や観察を行うようにする。
- 観察や実験の結果からどんなことが考えられるか、はじめは穴埋めの形式で考えさせ、徐々に自分なりに考察できるようにする。

達成目標

- 〈物質・エネルギー〉物の溶け方、振り子の運動、電流がつくる磁力についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、追究する中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力を養うとともに、主体的に問題解決しようとする態度を養う。
- 〈生命・地球〉生命の連続性、流れる水の働き、気象現象の規則性についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、追究する中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力を養うとともに、生命を尊重する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。